

海洋生物資源科学科のコース選択の手引き

平成 28 年度版（26 年度以降入学者用）

日本大学生物資源科学部
海洋生物資源科学科

目 次

| | |
|-----------------------|----|
| はじめに..... | 1 |
| コース概要..... | 1 |
| 1. 応用コース | |
| 2. 広域コース | |
| 3. 食品衛生コース | |
| 大学、学部、学科の理念..... | 1 |
| 1. 日本大学の目的および使命 | |
| 2. 生物資源科学部の教育研究理念 | |
| 3. 海洋生物資源科学科の教育研究理念 | |
| JABEE について..... | 2 |
| 応用コース履修案内..... | 3 |
| 1. 応用コースの目的 | |
| 2. 応用コースの特徴 | |
| 3. 応用コースの学習・教育目標と該当科目 | |
| 4. 応用コースの履修の要点 | |
| 5. 応用コースを修了するための条件 | |
| 6. コースの選択と申し込み | |
| 7. 編入者のコース選択について | |
| 8. プログラム責任者 | |
| 広域コース履修案内..... | 6 |
| 1. 広域コースの目的 | |
| 2. 広域コースの特徴 | |
| 3. 広域コースの学習教育目標と履修の要点 | |
| 4. 広域コースを修了するための条件 | |
| 5. 広域コースの選択と申し込み | |
| 食品衛生コース履修案内..... | 7 |
| 1. 食品衛生管理者とは | |
| 2. 食品衛生監視員とは | |
| 3. 任用資格とは | |
| 4. 食品衛生コースの履修 | |
| 5. 編入者の履修 | |
| 6. 履修の申し込み | |
| JABEE 対応履修者決定基準..... | 8 |
| 1. 受け入れ基本方針 | |
| 2. 履修者決定方法（2年次学生対象） | |
| 3. 履修継続確認（3年次学生対象） | |
| 4. 編入生（転科生を含む）について | |
| JABEE 対応修了者決定基準..... | 10 |
| 1. 修了者の判定方法 | |
| 2. 口述試験 | |
| 付表 1～4..... | 巻末 |

はじめに

日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科では、「海洋生物資源応用コース（以下、応用コース）」、「海洋生物資源広域コース（以下、広域コース）」、および「海洋生物資源科学科・食品衛生コース（以下、食品衛生コース）」の3つのコースを設けています。このうち、食品衛生コースの履修希望者は入学時に履修者名簿に登録する必要があり、応用コースと広域コースについては2年次の終わりに、どちらかのコースを選ぶことになります。したがって、食品衛生コースと応用コース、あるいは食品衛生コースと広域コースは重ねて履修することができます。

各コースを修了するには、それぞれのコースの必修科目を必ず履修する必要があります。後述の履修要項をよく読んで、1年次から科目の選択に注意してください。

コース概要

1. 応用コース

このコースは日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education: JABEE）により認定されたプログラム（以下、応用コース教育プログラム）に基づいています。応用コースの修了者は、日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科卒業による学士（生物資源科学）が授与されるとともに、日本の技術者資格である「技術士」の一次試験が免除される「修習技術者」となることができます。詳細については「**応用コース履修案内**」の項を参照してください。

2. 広域コース

このコースは海洋生物資源科学を基盤として、より広い専門分野の技術者を目指すコースです。選択できる教養教育科目と専門教育科目の数が応用コースより多くなります。本学部の他学科および他学部ならびに他大学開講科目の履修制度を利用すれば、本学科で開講されない他学科、他学部および他大学の専門教育科目を履修して、さらに広い分野の専門技術者を目指すことができます。広域コースの修了者には、日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科卒業による学士（生物資源科学）が授与されます。詳細については「**広域コース履修案内**」の項を参照してください。

3. 食品衛生コース

厚生労働省より認定された食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得できるコースです。本コースを修了すると、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格を取得するための単位取得証明書が授与されます。食品衛生管理者は食品の製造・加工を衛生的に管理し、法令に違反しないよう監督・指導します。食品衛生監視員は保健所などで食品衛生行政に関わる職務に配属された場合に任用される資格です。このように、食品衛生や管理に関わる理化学的、細菌学的、また動物を用いた検査に関する知識と経験が必要となるので、実験を含む多数の必修科目を履修する必要があります。食品関連企業への就職希望者には本コースの履修を勧めます。

大学、学部、学科の理念

いずれのコースを選択するにしても、これから大学の一員として学んでいく上で、日本大学、生物資源科学部、海洋生物資源科学科の教育研究理念を理解しておく必要があります。ここでは概要に止めるので、詳しくはそれぞれのホームページおよび学部要覧を参照してください。

1. 日本大学の目的および使命（学則第1節）

日本大学は、学祖山田顕義（あきよし）伯爵の建学の精神を受け継ぎ、次の2条を目的および使命としています。

第1条：日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

第2条：日本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人

を育成することを使命とする。

2. 生物資源科学部の教育研究理念

本学部の教育研究理念は、日本大学の建学精神である自主創造、文化の進展に寄与、豊かな国際性と協調性を重視する人材の育成、を継承し、さらに農学教育に発展させたものです。その教育目標は、「環境科学、生命科学、資源生産・利用科学の3分野を基軸として、自然や生物との共生を図り、人間活動を重視した教育研究を行うことによりこれらの問題を解決し、持続可能な社会を実現させるため、フィールドから分子レベルに至る教育と研究を通して優れた技術を備えた人間性豊かな人材の育成」です。

3. 海洋生物資源科学科の教育研究理念

学部・学科を取り巻く社会情勢の変化に伴い、本学科の教育研究理念も変化してきました。現在では、「幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力を持ち、海洋生物資源の永続的な維持を図るとともに効率的な生産および利用に関連する生命科学、資源生産・利用科学、および環境科学分野の知識を広く修め、海洋生物環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造でき、かつ国際的にも通用する人材の育成」を、学科の教育研究理念としています。

JABEE について

応用コース設立の基盤となっている日本技術者教育認定機構（JABEE）について簡単に説明します。

近年、経済のグローバル化に伴い、専門技術者の国際的な交流や活動が必要となっています。そのためには各国の技術者資格が相互に承認されなければなりません。それには実施されている技術者教育の同等性が必要です。欧米各国にはそれを保証する団体があり、ワシントン・アコードとよばれる協定を結び、教育の実質的同等性を認めています。その協定に沿って、1999年に発足した我が国の団体が JABEE です。

JABEE では、技術者教育を「数理科学、エンジニアリング・サイエンス、情報技術などの知識・手法を駆使し、社会や自然に対する影響を予見しながら、人類の生存・福祉・安全に必要なシステムを研究・開発・製造・運用・保全する専門職業すなわち技術業等のための高等基礎教育であり、工学研究のみならず、理学教育、農学教育などを含む幅広い概念である」と定義しています。したがって、プログラム修了者は専門分野の教育ばかりでなく、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、技術者倫理を含む一般教養など、技術者として必要な教育を修めたことが保証されます。

また JABEE は、本学科を含むこれら教育機関が、履修者を適切なカリキュラムで適切に教育し、成果をあげているか継続的に審査します。審査項目としては、学習・教育目標、学習・教育の量、教育手段、教育環境、学習・教育目標の達成度、教育改善などがあります。本学科は 2010 年秋に 2 回目の実地審査を受け、プログラム要件を十分に満たしているとのことで 6 年間の継続が認定され、現在に至っています。

JABEE では、土木、工学、農学など認定に関わる 16 の分野を規定していますが、本学科の応用コースは、農学関連分野の中の水産系プログラムとして認定されています。このプログラムを修了することにより、「認定された教育課程の修了者」として技術士試験の第一次試験が免除され、修習技術者となることができます。なお、修習技術者として実務を積み、すべての部門（分野）の技術士二次試験を受けることができます。詳しくは日本技術士会のホームページ（<http://www.engineer.or.jp/sub01>）を参照してください。

応用コース履修案内

1. 応用コースの目的

先に述べた海洋生物資源科学科の教育研究理念に基づき、国際的な同等性が確保された海洋生物資源科学の分野の専門技術者の育成を目的としています。

2. 応用コースの特徴

応用コースは学科の教育研究理念に基づき、専門基礎学の充実を図るため専門科目のうち、海洋生物資源、持続生産、水系－地球環境、水産物利用、および学科カリキュラム全般に関する専門基礎に関わる7科目を専門共通科目として位置付けました。また、細分化する各専門分野の基礎的知識や技術を広く修得するために、専門科目の履修方法を定めました（各分野5科目以上、合計32科目以上履修）。また、インターンシップ/学外研修を必修とし、実社会での体験に基づく技術者教育を強化したのが本コースの特徴です。

3. 応用コースの学習・教育目標と該当科目

応用コースの教育プログラムでは JABEE の基準、分野別要件、および水産系プログラムの要点を満たすため、学習教育目標として、以下の (A)～(I) の9項目を規定しています。各項目には番号を付し、具体的到達目標と、その目標を達成するために取るべき科目を示しました。科目の選び方については4. 履修の要点と付表1を参照してください。

- (A) 自立した社会人、国際人として幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力と洞察力を養う。
- ① 英語により最低限のコミュニケーションがとれる。(英語 I～IV、TOEIC など)
 - ② 海洋生物資源をめぐる国際的動向について説明できる。(海洋法規、フードビジネス論、海洋生物資源科学演習 I・II、卒業研究)
 - ③ 人、自然、環境と社会との関わりおよび異文化を理解し、多様な価値観を考慮することができる。(教養教育科目の人文・社会系科目、海洋基礎実習 I、インターンシップ/学外研修)
- (B) 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果を理解し、技術者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。
- ① 技術が社会および自然に及ぼす影響・効果を説明できる。(教養教育科目の人文・社会系科目)
 - ② 技術者の社会的役割と責任を説明できる。(海洋生物資源科学概論、水族館論、技術者の倫理入門、特別講義、インターンシップ/学外研修、海洋生物資源科学演習 I・II、卒業研究)
- (C) 海洋生物資源を科学的に理論付け、論理を展開するために必要な自然科学および情報技術に関する基礎知識を習得する。
- ① 海洋生物資源科学の諸事項を生物学、化学、物理学および数学的観点から把握できる。(教養教育科目の自然系科目、海洋基礎生物、海洋基礎化学、海洋基礎物理、基礎有機化学)
 - ② 海洋生物資源科学の諸事項を生命、生物資源、生物生産および環境的観点から把握できる。(教養教育科目の自然系科目、水族館論、海洋環境学、プランクトン学、生化学、遺伝育種学、海洋微生物学、海洋環境化学、生物海洋学、魚類生態学、海洋気象学)
 - ③ 基本的な情報処理ができる。(情報科学、水族の統計解析)
- (D) 海洋生物資源科学の専門基礎学にあたる海洋環境科学、海洋生態学、海洋生物学、食品生産学、資源管理学などに関する基礎知識を習得する。
- ① 海洋環境に関わる物質の分析、および特性と影響評価に関する基本的事項を説明できる。(海洋環境化学、分析化学)
 - ② 海洋の生態学的特性に関する基本的事項を説明できる。(魚類学、無脊椎動物学、海生ほ乳類学、海洋微生物学、魚類生態学、行動生態学、生物海洋学、深海生物学、潮間帯の生態学)
 - ③ 海洋生物の生理学的特性に関する基本的事項を説明できる。(細胞生物学、水族発生学、水族生理学、生理生化学)
 - ④ 食品生産の基本となる海洋生物の栄養素の特性と微生物の役割を説明できる。(生化学、食品微生物学、

生理生化学)

- ⑤ 資源管理の基本となる統計手法、管理手段および法規制について説明できる。(生物統計学、統計学入門、推計学入門、行動生態学、漁業生産システム学、水族の統計解析、海洋法規)
- (E) 海洋生物資源の持続生産および永続的利用に関する問題点を抽出・解決するための調査・実験を計画・実行し、適切に解析・報告するための基礎能力を養う。
- ① 海洋環境の特性を理解し、地球環境における海洋の重要性を説明できる。(海洋環境学)
 - ② 海洋生物資源の量的変動と持続生産に関する要因を解析し説明できる。(魚類生態学、漁業生産システム学、水族の統計解析)
 - ③ 海洋生物生産の変動要因および持続的生産の意義を理解し、生産機構の基礎的設計ができる。(漁業生産システム学、魚群行動学、魚類繁殖行動学)
 - ④ 水産加工食品の種類および製造方法が説明できる。(水産利用学)
 - ⑤ 海洋生物資源科学各分野の歴史と現状、今後解決すべき問題点の概要が説明できる。(海洋生物資源科学概論、水族館論、特別講義、インターンシップ/学外研修)
 - ⑥ 海洋生物資源科学に関連した実験を計画・遂行し、データを正確に解析、考察、説明できる。(水族生理学実験、増殖環境学実験、生物機能化学実験、水産利用学実験、海洋環境学実験、海洋生産学実験、水族育成病理学実験、水族生態学実験)
- (F) 海洋生物資源の環境、管理、生産、流通および利用に関する現状を把握し、課題を追求・解決するために必要な専門知識と技術を習得する。
- ① 海洋環境の悪化の原因、保護および修復の現状と今後の課題について指摘できる。(海洋環境保全・修復学)
 - ② 有用水産生物の種苗生産、養殖法、餌料、飼育環境管理、疾病対策の概要を把握し実際に飼育できる。(水族館論、水族育成学、水族栄養学、水族病理学、増殖環境学、水族生理学、水族生体防御学、分子生態学、増殖環境学実験)
 - ③ 食料および有用生物資源としての海洋生物の重要性と利用に関する問題点が説明できる。(水産利用学、食品衛生学、水産食品化学、生理生化学、食品加工学、公衆衛生学)
 - ④ 海洋生物資源管理の歴史的過程、国際的動向、流通と貿易に関する問題点が説明できる。(フードビジネス論、海洋法規)
 - ⑤ 海洋生物資源科学諸分野の基本概念と、概要および先端分野への展開と問題点が説明できる。(海洋生物資源科学概論、水族館論、海洋基礎実習Ⅰ・Ⅱ、小型船舶操縦法実習)
 - ⑥ 海洋生物資源科学諸分野に特化した先端技術を習得し、応用的実践ができる。(小型船舶操縦法実習、海洋生物資源科学実習Ⅰ・Ⅱ)
- (G) 海洋生物資源科学に関連した知見やデータを収集し、それらを解析・考察して適切に説明できるコミュニケーション能力を養う。
- ① 専門分野の英文資料が読め、海外の情報を収集できる。(海洋生物資源科学演習Ⅰ)
 - ② 集めた資料を整理・解析し、背景や社会的ニーズに対応して問題点を検討できる。(海洋生物資源科学演習Ⅱ)
 - ③ 発表内容を適切に要約したレジメが書け、内容が的確に相手に伝わるような発表ができる。(海洋生物資源科学演習Ⅱ)
- (H) 講義、演習、実習などで習得した知識、技術、推察力、洞察力、表現力、発表力などを総合的に活用して、課題を正確に把握しその解決策を提言できるデザイン能力を養う。
- ① 文献検索や調査を通して社会的ニーズと問題点を把握し、解決に向けた実験計画を立案できる。(卒業研究、海洋生物資源科学演習Ⅰ・Ⅱ)
 - ② 実験を遂行し、データを正確に解析、考察することにより、今後への提言ができる。(全実験、インターンシップ/学外研修、海洋生物資源科学実習Ⅰ・Ⅱ、海洋生物資源科学演習Ⅱ、卒業研究)
 - ③ 実験結果に基づき討議を重ね、実験をさらに発展できる。(全実験、インターンシップ/学外研修、海洋生物資源科学実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究)

- ④ 実験結果について口頭発表し、さらに論文として適切にまとめることができる。(卒業研究)
- (I) インターンシップを通し、知識と技術が実務にどう使われているかを理解し、実務上の問題点や課題に対処する基礎能力を養う。
- ① 現場における実務者の社会的責任に関して説明できる。(インターンシップ/学外研修)
 - ② 社会の要請をもとに、ある問題の解決策をデザインできる。(インターンシップ/学外研修)
 - ③ 研修場所の従業員や指導者との確にコミュニケーションがとれる。(インターンシップ/学外研修)
 - ④ 自主的、継続的な学習の重要性を現場で体験する。(インターンシップ/学外研修)
 - ⑤ 与えられた制約下で計画的に仕事を進め、結果をまとめることができる。(インターンシップ/学外研修)
 - ⑥ 実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力を身に付ける。(インターンシップ/学外研修)

4. 応用コースの履修の要点

履修科目は、教養基礎科目、共通基礎科目、専門科目（専門共通科目（必修）、専門選択科目）に分類されます（付表 1 を参照）。それぞれの履修要点を以下に示します。

(1) 教養基礎科目

人文系基礎分野、社会系基礎分野、および自然系基礎分野からそれぞれ 1 科目以上、環境・技術・社会倫理分野から 2 科目以上を選択し、これを含めてその他の科目・分野から 3 科目以上、および必修科目を履修し、合計 12 科目以上を履修すること。

(2) 共通基礎科目

生命科学、生物資源科学、生物生産科学、環境科学、化学、物理学、数学、生物学、統計学および情報処理の各分野からそれぞれ 1 科目以上を選択し、必修科目と併せ計 14 科目以上を履修すること。

(3) 専門科目

専門共通科目：すべて履修すること（必修）。

専門選択科目：各分野から 5 科目以上、計 32 科目以上を履修すること。ただし、必修科目、実験 4 科目以上を含まねばならない。また、入室を希望する研究室の入室要件（付表 2）を満たさなければならない。

5. 応用コースを修了するための条件

応用コースを修了するためには、応用コース教育プログラム修了者判定基準による審査に合格する必要があります。すなわち、修了要件をすべて満たし、口述試験による最終的な総合判定に合格しなければなりません。口述試験はコース修了時に複数の学科教員により行われます（平均点が 60 点以上で合格）。

6. コースの選択と申し込み

2 年次後期授業終了時にガイダンスを行います。担任の指示に従って、「海洋生物資源科学科コース履修登録用紙」を提出してください。書類により審査し、3 年次の 4 月上旬までに履修者を決定します。応用コースを選択する意思のある学生は学科の掲示に注意してください。

7. 編入者のコース選択について

短期大学部などからの編入者に対しても、学科の履修希望者と同様に審査・決定します。編入前に短期大学部で取得した認定単位については、本学科で応用コース教育プログラムとして認定可能か判定します（付表 3）。

8. プログラム責任者

学科主任

広域コース履修案内

1. 広域コースの目的

海洋生物資源科学科の教育研究理念に基づき、海洋生物資源科学の基礎を習得した上で、各人が指向する様々な分野の専門技術者養成を目的としています。

2. 広域コースの特徴

広域コースも応用コースと同様、学科の教育研究理念に基づき学科の卒業要件に従って履修し、海洋生物資源科学を基盤とします。一方、選択できる教養教育科目および専門教育科目数は応用コースよりも多くなります。従って、各自の考えにより、より広い分野から科目を選択して、それらに特化した専門技術者を目指すことができます。広域コースを希望する学生は、本学部の他学科および他学部ならびに他大学開講科目の履修制度を積極的に利用し、本学科で開講されていない他学科あるいは他学部の専門教育科目（演習、実験、実習、特別講義を除く）を 20 単位以内（うち他学部 10 単位以内）で履修して学習の幅を広げてください。

3. 広域コースの学習教育目標と履修の要点

広域コースでは、学科の教育研究理念を達成するために、次の (i)~(iii) の学習教育目標を規定しています。各科目の授業内容や成績評価は応用コースと同じです。

(i) 幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力および海洋生物資源科学を科学的に理論付け、論理を展開するために必要な基礎能力、かつ、国際的にも通用する能力を養う。

*この目標を達成するために教養教育科目の「言語系科目」から英語 I~IV を必修とします。また、「人文・社会系科目」、「自然系科目」、「健康・スポーツ系科目」（スポーツ実技 I は必修）および「総合系科目」から合わせて 22 単位（言語系科目を入れると 30 単位）以上を修得しなければなりません。専門教育科目の海洋基礎生物、海洋基礎化学および海洋基礎物理の開講時試験の合格あるいは単位修得を研究室入室要件とします。また、海洋生物資源科学演習 I・II を必修とします。

(ii) 海洋生物資源の永続的維持、効率的生産および利用を図り、海洋生物資源の保全と人類の生活との調和を実現するために必要な生命科学、資源生産・利用科学および環境科学分野に関する基礎知識を習得する。

*この目標を達成するためにそれぞれの分野に必修科目を設けています。また、3 分野を総合した海洋生物資源科学概論、海洋基礎実習 I・II を必修とします。

(iii) 以上で学んだ基礎的知識に基づき、さらに、より細分化された専門分野に関する基本的知識と技術を習得するとともに、それらの分野における問題点および社会的ニーズを理解し、問題を解決するためのデザイン能力および応用能力を養う。

*この目標を達成するために、各研究室で担当する海洋生物資源科学実習 I・II および卒業研究を必修とし、各研究室に入室するために必要な履修科目（付表 2 参照）を定めています。

4. 広域コースを修了するための条件

広域コースの修了条件は教養教育科目の「言語系科目」（英語 4 科目必修）、「人文社会系科目」、「自然系科目」、「健康・スポーツ系科目」（スポーツ実技 I 必修）および「総合系科目」から合わせて 30 単位以上、専門教育科目の必修科目 34 単位と選択科目 60 単位以上、すべてを合わせて 124 単位以上の取得が必要です。

5. 広域コースの選択と申し込み

2 年次後期授業終了時にガイダンスを行いますので、掲示に注意してください。ガイダンスに出席した上で、担任の指示に従って、必ず「海洋生物資源科学科コース履修登録用紙」を提出してください。

食品衛生コース履修案内

1. 食品衛生管理者とは

乳製品、食肉製品、魚肉練り製品、食用油脂、マーガリンまたはショートニング、および添加物の製造・加工を行う営業者は、その製造・加工を衛生的に管理するため、施設ごとに専任の食品衛生管理者を置くことが、食品衛生法第 48 条に定められています。食品衛生管理者はこれらの施設において、その製造・加工の衛生管理について法令に違反しないよう監督・指導を行います。従って食品衛生管理者の資格を得るためには、食品衛生や管理に関わる理化学的、細菌学的、また動物を用いた検査に関する知識と経験が必要となります。本食品衛生コースは、食品衛生管理者任用資格を取得できる食品衛生管理者養成コースとして厚生労働省から認定されています。

2. 食品衛生監視員とは

食品衛生管理者任用資格を得て卒業し、公務員に採用され、保健所等の食品衛生行政に関する職務に配属された場合に任用される資格です。食品関連の施設や病院、学校などの給食施設に対して監視・指導します。

3. 任用資格とは

所定の科目を修得し、卒業後にその資格に関連する職務に就業した場合に、申請すると取得できる資格です。コースの修了のみで資格を取得することはできません。

4. 食品衛生コースの履修

本コースは「食品衛生管理者」および「食品衛生監視員」の「任用資格」を得るコースです。修得しなければならない知識と経験が法令により規定され、**付表 4**に示すように多数の必修科目を履修する必要がありますので充分注意してください。しかし、現状では食品関連企業への就職希望者が多いので本コースの履修を勧めます。また、本コースを修了すると、飲食店等の営業を行うときに置かなければならない「食品衛生責任者」になることができます。

5. 編入者の履修

任用資格を得るための単位は、厚生労働省から認定された養成施設（たとえば本学科）のカリキュラムの単位を意味します。他のカリキュラムで取得した単位は認定されません。短大などからの編入者は、この履修案内に従って必要な科目を履修し直してください。

6. 履修の申し込み

食品衛生コースの履修希望者は、原則として1年次の新入生ガイダンス時に配布される申し込み用紙に必要事項を記入し提出してください。申し込み者は履修者名簿に登録されます。名簿に登録されていないと、必要単位をすべて修得した場合も修了者として認められません。また、本コースの履修を途中で断念しても卒業には影響しません。本コースの修了者には単位取得証明書が伝達されます。

海洋生物資源科学科応用コース教育プログラム（JABEE）対応履修者決定基準

（2013年4月13日）

この基準は本プログラム履修希望者全員に該当する。

1. 受け入れ基本方針

海洋生物資源科学科は、海洋生物およびその資源に興味をもつ個性的な学生を広く受け入れ、広範な基礎科学および専門基礎学を修得させ、高度の専門教育を教授することを入学受け入れおよび教育方針とする。海洋生物資源科学応用コースはこれを基本とし、学科の教育研究理念を実践でき、さらに海洋生物資源科学専門基礎学の充実、各専門分野の基礎的な知識と技術の全般的な修得、および実社会での体験に基づく技術者教育の強化を通じて海洋生物資源科学分野の技術者を目指す、強い意思と意欲をもつ学生を受け入れる。

2. 履修者決定方法（2年次学生対象）

1) 決定時期

- (1) プログラムおよび申込方法の説明と履修登録用紙配布（後期授業終了時）
- (2) 履修登録用紙を後期授業終了後、指定された期日までに学科事務に提出
- (3) 履修登録集計、希望者リスト作成

2) 課題の提出

- (1) 応用コース履修案内の1～4（目的、特徴、学習・教育目標と該当科目、修了の条件）をレポート用紙などに書き写し（手書き）、指定された期日（2月中旬）までに学科事務に提出。
- (2) レポートの判定*：①充分修了できる。②修了できるが努力が必要。③未提出（登録不可）
*①または②の判定を受けた学生には判定結果を通知する。なお、②判定でコース選択を希望する学生には、別途、担任が面接し、プログラム理解度、単位取得状況、単位充足度、履修計画などを確かめて判断する。③の場合、履修登録用紙を学科事務に再提出する。

3) 単位修得表の記入

①または②判定の学生には年度始めの学年ガイダンス時に単位修得表を配布、同時に配布される成績表（単位履修表）をもとに修得単位の照合と自己評価をする。単位修得表は学科事務に提出する。

4) 総合判定

レポート判定、自己申告の単位修得表、および面接結果をもとに以下の総合判定を行う。

- ①充分修了できる。
 - ②修了できるが努力が必要。
- *総合判定結果は本人に通知する。

3. 履修継続確認（3年次学生対象）

1) 課題の提出

- (1) 応用コース履修案内の1～4（目的、特徴、学習・教育目標と該当科目、修了の条件）をレポート用紙などに書き写し（手書き）、指定された期日（2月中旬）までに学科事務に提出。
- (2) レポートの判定*：①充分修了できる。②修了できるが努力が必要。③未提出（継続不可）
- (3) やむを得ぬ理由で、応用コースを継続しない者は、所定のコース変更届/理由書を指定された期日（2月中旬）までに学科事務に提出する。

*レポートを提出せず、コース変更の意思表示もしないで放置するとこの段階で修了不可となり、資格が取れないだけでなく、卒業に差し支える可能性があるので十分注意すること。

2) 英語の学外評価検定受験状況の確認

英語の学外評価検定を受験したことを証明する認定証、証明書（成績、スコア）等のコピーを指定された期日（2月中旬）までに学科事務に提出する。

3) 単位修得状況の確認

資料をもとに担任および学科事務で単位修得状況を確認し、所属研究室の教員に通知する。なお、コース継続の可否は4年次の4月初旬に学科掲示板で知らせる。

4) 面接

上記 1)~3) で何らかの問題が認められた学生についてはその旨通知し、別途教員による面接を実施する。面接の内容は履修者決定時の面接に準ずる。

5) 総合判定

上記 1)~4) を総合的に判定し、コース継続者を4月初旬に学科掲示板で掲示する。

4. 編入生（転科生を含む）について

1) 受入の基本方針

本学科への編入生は日本大学短期大学部卒業生あるいは卒業見込み者に限られるため、本学科および応用コース教育プログラムについては概ね周知されている。また、編入にあたっては、本学科の受入方針に沿った試験の合格者を受け入れている。従って、本プログラムの履修を希望する編入生は、本学科からの履修希望者と同等に扱う。

2) 単位認定科目の評価

編入前に取得した認定単位の評価は、その科目のシラバスの内容、学習目標、評価基準などから判断し、本プログラムの該当科目と同等と認められた科目については本プログラムでも単位を認定する。

海洋生物資源科学科応用コース教育プログラム（JABEE）対応修了者決定基準

（2013年4月13日）

1. 修了者の判定方法

学科主任を委員長とするプログラム修了者判定委員会で、①修了要件の審査結果、②口述試験結果、に基づき判定する。

1) 期日：卒業研究発表時および修了年度の2月中旬。

2) 判定基準

(1) 修了要件の審査

(a) プログラムの学習教育目標 A～I の達成に必要な科目の単位を取得し、取得単位が修了要件を満たすこと。

(b) 英語に関する学外評価や検定を継続的に受け、実力向上の努力をしていること。

(2) 口述試験

学科教員複数名により審査し、平均点が60点以上で合格（100点満点）。

2. 口述試験

1) 卒業研究の発表を行う。

2) 発表で用いる図表の記述は英文で表す。

3) 発表に対する質疑応答によりプログラムの学習教育目標の達成度を判定する。

4) 判定の根拠

次の各項目について総合的に採点し、その合計点が60点以上であること。採点基準は「プログラム修了者判定要領」に定める。

(1) 図表は正しい英文で適切に表現されているか（学習教育目標 A、G）。

(2) 技術者の社会的責任を自覚しているか（B）。

(3) 卒業研究を進める上で数学を初めとするとする基礎的な自然科学および情報技術の知識が正しく使われているか（C）。

(4) 海洋生物資源科学の専門基礎学に関する知識が正しく使われているか（D）。

(5) 研究関連分野の問題点を抽出し、解決するための調査・実験計画および実験の遂行と結果の解析が適切であるか（E）。

(6) 研究関連分野の先端的専門知識および技術が使われているか（F）。

(7) 研究課題に即した情報を収集、解析、考察して説明しているか（A、G、H）。

(8) 研究課題のもとになった背景を正しく理解し、課題を解決するための実験計画、実験が適切か、また、解決策を提言できたか（A、G、H）。

(9) 講義、演習、実習などで得た知識と技術を研究の中で展開できているか（G、H、I）。

(10) 研究を進める上で直面する問題と問題点を正しく把握し、解決策を見出そうと努力したか（I）。

付表1.【平成28年度入学者対象:海洋生物資源科学科・応用コース】卒業までに単位取得が必要な科目の選択方法

| 教養基礎科目 | 共通基礎科目 | 専門科目 |
|--|---|---|
| 分野毎に必要な数以上の科目を選択。教養教育科目の科目分類とは異なるので注意。 | 分野毎に必要な数以上の科目を選択し、共通基礎科目内で 合計14科目以上 とする。 | 専門共通科目は、 全科目を選択 。 専門選択科目では、 分野毎に必要な数以上の科目を選択し、合計32科目以上 とする。 (注:分野に関係なく、 実験を必ず4科目以上 選択する) |
| 言語系分野(全科目必修) | 生命科学分野(必修) | 専門共通科目(全科目必修) |
| <input type="checkbox"/> 英語 I 必 | <input checked="" type="checkbox"/> 生化学 必 | 海洋生物資源に関する基礎の分野 |
| <input type="checkbox"/> 英語 II 必 | 生物資源科学分野(この中から1科目以上) | <input checked="" type="checkbox"/> 無脊椎動物学 必 |
| <input type="checkbox"/> 英語 III(科学英語) 必 | <input type="checkbox"/> 魚類生態学 | 持続生産に関する概念の分野 |
| <input type="checkbox"/> 英語 IV(英会話) 必 | <input type="checkbox"/> 生物海洋学 | <input checked="" type="checkbox"/> 漁業生産システム学 必 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 海洋生物資源科学演習 I 必 | | 水系-地球環境に関する基礎の分野 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋環境学 必 |
| 人文系基礎分野(この中から1科目以上) | 生物生産科学分野(必修) | 水産物の利用に関する基礎の分野 |
| <input type="checkbox"/> 哲学入門 | <input checked="" type="checkbox"/> 水族育成学 必 | <input checked="" type="checkbox"/> 水産利用学 必 |
| <input type="checkbox"/> 倫理学入門 | 環境科学分野(この中から1科目以上) | 全般の分野 |
| <input type="checkbox"/> 心理学入門 | <input type="checkbox"/> 地球環境を考える | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋生物資源科学概論 必 |
| <input type="checkbox"/> 文化人類学入門 | <input type="checkbox"/> 海洋気象学 | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋基礎実習 I 必 |
| <input type="checkbox"/> 比較文化論 | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋環境化学 必 | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋基礎実習 II 必 |
| 社会系基礎分野(この中から1科目以上) | (応用)化学分野(この中から1科目以上) | |
| <input type="checkbox"/> 法学入門 | <input type="checkbox"/> 基礎化学 | |
| ※ <input type="checkbox"/> 社会学入門 | <input type="checkbox"/> 基礎有機化学 | |
| <input type="checkbox"/> 政治学入門 | <input type="checkbox"/> 海洋基礎化学 | |
| <input type="checkbox"/> 経済学入門 | (応用)物理学分野(この中から1科目以上) | |
| ※ <input type="checkbox"/> 地理学入門 | <input type="checkbox"/> 物理学入門 | |
| ※ <input type="checkbox"/> 歴史学入門 | <input type="checkbox"/> 基礎力学 | |
| | <input type="checkbox"/> 海洋基礎物理 | |
| 自然系基礎分野(この中から1科目以上) | 数学分野(この中から1科目以上) | |
| <input type="checkbox"/> 物理学入門 | <input type="checkbox"/> 解析学 | |
| <input type="checkbox"/> 基礎力学 | <input type="checkbox"/> 線形代数 | |
| <input type="checkbox"/> 基礎化学 | <input type="checkbox"/> 統計学入門 | |
| <input type="checkbox"/> 基礎生物学 | 生物学分野(この中から1科目以上) | |
| <input type="checkbox"/> 基礎地球科学 | <input type="checkbox"/> 基礎生物学 | |
| ※ <input type="checkbox"/> 科学史 | <input type="checkbox"/> 海洋基礎生物 | |
| その他の分野・科目(合わせて3科目以上) | 統計学分野(この中から1科目以上) | |
| 環境・技術・社会倫理科目(この中から2科目) | <input type="checkbox"/> 生物統計学 | |
| <input type="checkbox"/> 哲学の現在 | <input type="checkbox"/> 統計学入門 | |
| <input type="checkbox"/> 倫理学の現在 | <input type="checkbox"/> 推計学入門 | |
| <input type="checkbox"/> 環境の文化人類学 | 情報処理分野(この中から1科目以上) | |
| <input type="checkbox"/> 社会学の現在 | <input type="checkbox"/> 情報科学 | |
| ※ <input type="checkbox"/> 科学技術と社会 | <input type="checkbox"/> 水族の統計解析 | |
| ※ <input type="checkbox"/> 生命倫理 | | |
| その他の科目 | | |
| <input type="checkbox"/> 日本の文学 | | |
| <input type="checkbox"/> 比較芸術論 | | |
| <input type="checkbox"/> 行動心理学 | | |
| <input type="checkbox"/> 個性の心理学 | | |
| <input type="checkbox"/> スポーツ科学 | | |
| <input type="checkbox"/> スポーツ実技 I 必 | | |
| <input type="checkbox"/> 日本国憲法 | | |
| <input type="checkbox"/> 政治と現代社会 | | |
| <input type="checkbox"/> 経済と現代社会 | | |
| <input type="checkbox"/> 地理学の現在 | | |
| <input type="checkbox"/> 歴史と現代社会 | | |
| <input type="checkbox"/> 現代社会と福祉 | | |
| <input type="checkbox"/> 化学特論 | | |
| <input type="checkbox"/> 総合生物学 | | |
| <input type="checkbox"/> 総合地球科学 | | |
| <input type="checkbox"/> 推計学入門 | | |
| <input type="checkbox"/> 地球環境を考える | | |
| | | 専門選択科目 |
| | | ☆海洋環境に関する基礎の分野(この中から5科目以上) |
| | | <input type="checkbox"/> ブラントン学 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋環境化学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 海洋微生物学 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋環境保全・修復学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 生物海洋学 |
| | | <input type="checkbox"/> 海洋環境学実験 |
| | | <input type="checkbox"/> 海洋気象学 |
| | | ☆資源生産・管理に関する基礎の分野(この中から5科目以上) |
| | | <input type="checkbox"/> 生物統計学 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋法規 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 魚類生態学 |
| | | <input type="checkbox"/> 魚類繁殖行動学 |
| | | <input type="checkbox"/> 行動生態学 |
| | | <input type="checkbox"/> 潮間帯の生態学 |
| | | <input type="checkbox"/> 魚群行動学 |
| | | <input type="checkbox"/> 海洋生産学実験 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族の統計解析 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族生態学実験 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> フードビジネス論 必 |
| | | ☆増養殖に関する基礎の分野(この中から5科目以上) |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 魚類学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族生理学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族栄養学 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 増殖環境学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 海生ほ乳類学 |
| | | <input type="checkbox"/> 分子生態学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族発生学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族生体防御学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族病理学 |
| | | <input type="checkbox"/> 増殖環境学実験 |
| | | <input type="checkbox"/> 遺伝育種学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族育成病理学実験 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 細胞生物学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 水族生理学実験 |
| | | ☆資源利用に関する基礎の分野(この中から5科目以上) |
| | | <input type="checkbox"/> 食品微生物学 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 生化学 必 |
| | | <input type="checkbox"/> 食品加工学 |
| | | <input type="checkbox"/> 食品衛生学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水産食品化学 |
| | | <input type="checkbox"/> 生理生化学 |
| | | <input type="checkbox"/> 公衆衛生学 |
| | | <input type="checkbox"/> 基礎有機化学 |
| | | <input type="checkbox"/> 水産利用学実験 |
| | | <input type="checkbox"/> 生物機能化学実験 |
| | | 全般の分野 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 卒業研究 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> インターンシップ/学外研修 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋生物資源科学演習 II 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 特別講義 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋生物資源科学実習 I 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 技術者の倫理入門 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋生物資源科学実習 II 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 小型船舶操縦法実習 必 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 水族館論 必 |
| | | キーワード・注意事項他 |
| | | 必 必修科目 |
| | | <input type="checkbox"/> 教養教育科目必修 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目必修 |
| | | ◆ 指定科目必修 |
| | | ※ 推薦科目:応用コースにおける学習・教育目標充実のため、なるべく選択。 |
| | | 2分野で重複して指定されている科目。 |
| | | 注:これらの科目についてはいずれかの1分野のみで取得単位数に計上され |
| | | その他科目選択時における資料・情報: |
| | | 海洋生物資源科学科のコース選択の手引き |
| | | ① 応用コース履修要項 |
| | | ② 研究室入室・卒業要件(各研究室の選択科目) |

付表2. 海洋生物資源科学科における研究室入室・卒業要件（平成26年度以降入学）

各研究室への入室および卒業には、専門教育科目の必修科目に加えて入室を希望する研究室の選択科目の単位取得が必要です。

| 研究室名 | 1年次 | | 2年次 | | | 3年次 | |
|-----------|---|-------|----------------|-----------|--------|---------|--------------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 集中 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 海洋生物生理学 | 海洋基礎生物 海洋基礎化学 海洋基礎物理 (合格することが入室・卒業要件になります) | | 細胞生物学 遺伝育種学 | 水族生理学実験 | 水族生理学 | | |
| 増殖環境学 | | 水族栄養学 | 海洋微生物学 | 増殖環境学実験 | | 分子生態学 | |
| 生物機能化学 | | | | 生物機能化学実験 | | 生理生化学 | 分析化学 |
| 水圏生物病理学 | | | 水族病理学 水族発生学 | 水族育成病理学実験 | | 水族生体防御学 | |
| 海洋生物資源利用学 | | | 食品微生物学 | 水産利用学実験 | | 食品加工学 | 水産食品化学 |
| 海洋環境学 | | | プランクトン学 | 海洋環境学実験 | 海洋環境化学 | 生物海洋学 | 海洋環境保全修復学 深海生物学 |
| 魚群行動計測学 | | | | 海洋生産学実験 | 行動生態学 | 魚群行動学 | 魚類繁殖行動学 |
| 水族生態学 | | | 魚類生態学 | 水族生態学実験 | | 潮間帯の生態学 | 水族の統計解析 |
| ウナギ学 | | | | | | | |

付表3. 短大からの編入者に対する海洋生物資源科学科・応用コース認定科目(平成27年度以降の卒業生に適用)

| 教養教育科目 | | | |
|--------------|----------------|---------------------------------|-------------|
| 短大科目 | 認定科目 | 応用コースにおける科目分類 | 卒業要件 |
| 国語表現論 | 日本語表現の基礎 | 教養基礎科目/その他 | 人文社会系科目 |
| 心理学 | 心理学入門 | 教養基礎科目/人文系基礎 | 人文社会系科目 |
| スポーツ科学 | スポーツ科学 | 教養基礎科目/その他 | 健康・スポーツ系科目 |
| スポーツ実技 I | スポーツ実技 I | 教養基礎科目/その他 | 健康・スポーツ系科目 |
| 日本国憲法 | 日本国憲法 | 教養基礎科目/その他 | 人文社会系科目 |
| 環境社会学 | 社会学の現在 | 教養基礎科目/環境・技術・社会倫理 | 人文社会系科目 |
| 経済学 | 経済学入門 | 教養基礎科目/社会系基礎 | 人文社会系科目 |
| 基礎数学 | 解析学 | 共通基礎科目/数学 | 自然系科目 |
| 基礎物理学 | 物理学入門 | 教養基礎科目/自然系基礎、 あるいは共通基礎科目/物理学 | 自然系科目 |
| 基礎化学 総合化学 | 基礎化学 | 教養基礎科目/自然系基礎、 あるいは共通基礎科目/化学 | 自然系科目 |
| 基礎生物学 | 基礎生物学 | 教養基礎科目/自然系基礎、 あるいは共通基礎科目/生物学 | 自然系科目 |
| 総合生物学 | 総合生物学 | 教養基礎科目/その他 | 自然系科目 |
| 英語 I | 英語 I | 教養基礎科目/言語系 | 言語系科目 |
| 英語 II | 英語 II | 教養基礎科目/言語系 | 言語系科目 |
| 英語 III | 英語 III | 教養基礎科目/言語系 | 言語系科目 |
| 英語 IV | 英語 IV | 教養基礎科目/言語系 | 言語系科目 |
| 専門教育科目 | | | |
| 生物有機化学 | 基礎有機化学 (3) * | 専門選択科目 (資源利用) | 専門教育科目 (選択) |
| 微生物学 | 海洋微生物学 (2) | 専門選択科目 (海洋環境) | 専門教育科目 (選択) |
| 生物化学 | 生化学 (2) | 専門選択科目 (資源利用) | 専門教育科目 (必修) |
| 環境保全管理学 | 海洋環境保全・修復学 (3) | 専門選択科目 (海洋環境) | 専門教育科目 (選択) |
| 食品化学 | 水産食品化学 (3) | 専門選択科目 (資源利用) | 専門教育科目 (選択) |
| 食品化学実験 | 水産利用学実験 (2) | 専門選択科目 (資源利用) | 専門教育科目 (選択) |
| 食品流通論 | フードビジネス論 (3) | 専門選択科目 (資源生産・管理/必修) ** | 専門教育科目 (選択) |
| 食品加工貯蔵学 | 食品加工学 (3) | 専門選択科目 (資源利用) | 専門教育科目 (選択) |

*開講年次

** 資源生産・管理分野における必修科目 (指定科目)

